

高 齡 者 ノ 統 計 的 觀 察

附・ 高 齡 者 ノ 血 壓 ニ 就 テ

岡山醫科大學生理學教室（主任生沼教授）

吉 栖 生 一

本論文ノ大要ハ昭和4年2月岡山醫學會總會ニ於テ之ヲ報告セリ。

内 容 目 次

第 1 章 緒 言	第 7 章 既往及ビ現在ノ主ナル疾病
第 2 章 調査ノ方法及ビ其ノ範圍	第 1 節 既往ノ主ナル疾病
第 3 章 高齡者ノ分布狀態，年齡別，男女別及ビ職業別	第 2 節 現在ノ主ナル疾病
第 4 章 高齡者ノ生活狀態ニ就テ	第 8 章 高齡者ノ體格ニ就テ
第 1 節 生活程度	第 9 章 高齡者ノ月經ニ就テ
第 2 節 居 住	第 10 章 高齡者ノ檢尿ニ就テ
第 3 節 衣 服	第 1 節 検査ノ方法
第 4 節 食 物	第 2 節 其ノ成績
第 5 節 勞 働	第 11 章 齒牙，頭髮，眼，聽能及ビ視能ニ就テ
第 6 節 慰安ノ方法	第 1 節 齒 牙
第 7 節 攝生法	第 2 節 頭 髮
第 8 節 睡眠時間	第 3 節 眼
第 9 節 學力程度	第 4 節 聽能及ビ視能
第 5 章 高齡者ノ遺傳的關係	附・ 高齡者ノ血壓ニ就テ
第 1 節 兩親ニ就テ	第 1 節 血壓測定方法
第 2 節 祖父母ニ就テ	第 2 節 測定ノ成績
第 3 節 同胞及ビ子ニ就テ	第 3 節 血壓ト蛋白尿トノ關係
第 6 章 高齡者ノ婚姻ノ關係	第 12 章 總括並結論
	主要文獻

第 1 章 緒 言

洋ノ東西ヲ問ハズ、時ノ古今ヲ論ゼズ、如何ニセバ長壽ヲ保チ得ベキヤ？其ガ真相ヲ究メン
トシテ研究セルモノ多々アルモ未ダ以テ其ノ目的ノ彼岸ニ達セズ。人生或ハ 50 ト稱シ或ハ 70
古來稀ナリト唱フ。醫學ノ進歩ハ滔々トシテ停止スル所ヲ知ラズ。乳兒幼兒ニ關スル研究ハ各
方面ニ於テ盛ニ行ハレツツアルモ高齢者ニ關スル研究ニ至リテハ從來一般ニ等閑ニ附セラレタ
ル感ナキ能ハズ。然レ共現今漸ク之ガ研究ノ必要ヲ高唱シ老人科ノ設置ヲ提言スル人サヘアル
ヲ耳ニシ愈々以テ此方面ニ於ケル研究ノ緊要ナルヲ思ハシム。時恰モ曠古ノ御大典ニ際シ長壽
高齢ノ翁、嫗等ニ畏クモ養老盃ヲ下賜セラルルニ遭遇シ益々其ノ感ヲ深カラシム。

從來本邦高齢者ニ關スル研究報告ハ餘リ多ク手ニ入ルルヲ得ズト雖モ 2, 3 ヲ舉ゲレバ新聞
記者¹⁾ノ行ヒタル長壽者訪問記又ハ専門家ナラザルモノノ蒐集セル材料^{2) 3)}ニヨリ、又ハ自カ
ラ實地調査ヲ行ハズシテ或ル様式ニヨリ通信調査セル材料⁴⁾ニヨリ纂說セルモノニ止リ、醫家
自カラ精細ナル實地調査ヲ行ヒタル報告ハ極メテ稀ナルモノノ如シ。

余ハ敍上ノ意味ヨリシテ此興味アル高齢者ニ就テ實地檢索ヲ遂ゲ、之ニ關スル統計的觀察ヲ
試ミ茲ニ之ヲ報告セントス。然レ共時ヲ限り廣汎ナル範圍ニ於テ大量的ニ觀察セントセバ多數
ノ専門家ト多額ノ經費トヲ要ス可ク從ツテ實施甚ダ困難ナルヲ以テ此處ニハ標本調査（典型調
査）^{5) 6)}ノ形式ニ倣ヒ調査セル成績ヲ述ベントス。

第 2 章 調査ノ方法及ビ其ノ範圍

昭和 3 年 10 月 20 日ヨリ同年 12 月 31 日ニ至ル期間ニ於テ兵庫縣西南隅海岸ニ近キ 1 町、1 村（赤穂町、
鹽屋村）ニ出張調査セリ。特ニ當地方ヲ選定セシハ余ノ知己多キヲ以テ調査上便宜多キタメナリ。其ノ材料
トシテハ數ヘ年 80 歳（79.5 歳—90.5 歳ニ至ル）以上ノ高齢者ニシテ養老盃拜受者名簿ニ基キ各々其ノ住宅
ニ足ヲ運ビ、親シク其ノ警戒ニ接シ共ニ歡談シツツ豫メ計畫セル一定様式ノ調査表（様式ハ之ヲ略ス）ニ依
リ詳細調査セリ。惟フニ散在性ニ存スル高齢者ヲ戸別ニ訪ルハ容易ノ業ニアラザルコトハ此種ノ調査ヲ行
ヒ初メテ味ヒタル最モ貴重ナル經驗ノ一ツニ屬ス。調査項目ニヨリテハ後章其ノ都度調査ノ方法ヲ詳述セ
ントス。

第 3 章 高齢者ノ分布狀態、年齡別、 男女別及ビ職業別

昭和 3 年 10 月 20 日現在ニ於ケル 1 町、1 村ノ數ヘ年 80 歳以上ノ高齢者ハ 99 名ニシテ A 町
ハ 55 名、S 村ハ 44 名ナリ。其ノ分布狀態ハ第 1 圖ニ示スガ如シ。

附圖第1



- 備考 1. 人口ノ割合ヲ圓ノ面積ニテアラハス。即チ $\pi r^2 = \text{圓ノ面積}$ ニヨリ $r = \sqrt{\frac{\text{人口}}{\pi}}$ ヲ得
從テ半径ヲ知リ之ニヨリ圓ヲ畫ケリ。
2. 高齢者ノ實數ヲ圓中ニ點ノ數ニテアラハス。
3. 本圖ハ町、村ヲ通ジ部落別ニ人口ト高齢者トノ割合ヲアラハセリ。

次ニ之ヲ年齡別ニ就テ見ルニ第1表ニ示スガ如シ。年齡ノ計算ハ諸家莠グ區々ナルガ爲メ其ノ結果ヲ直ニ相互ニ比較スルコトヲ得ザル場合アリテ不便多シ。余ハ福富^①ニ依リ滿79年ヨリ79年12月迄ヲ79.5歳トシ從テ滿80年ヨリ80年12月迄ヲ80.5歳トセリ。

第1表 高齢者年齡別表

年齡別	男女別	男	女	計
—79.5 歳		8	13	21
80.5—84.5 歳		20	41	61
85.5—89.5 歳		2	13	15
90.5 歳—		0	2	2
合 計		30	69	99

第1表ニ就テ見ルニ 80.5歳—84.5歳ノモノ多數ニシテ ソレヨリ年齢ノ増加ト共ニ高齢者ハ漸次減少スルヲ知ル。

次ニ男女別ニ就テ見ルニ 男ノ30名ニ對シ女ハ69名ニシテ 更ニ之ヲ昭和2年12月末日調査現在人口ニ比較スル時ハ第2表ノ如シ。

第2表 高齢者現在人口比較表

區 別 範 圍	高 齡 者			昭和2年12月末日調査現在人口			現在人口ニ對スル高齢者 千分比		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
A 町	12	43	55	3530	3581	7111	3.40	12.01	7.73
S 村	18	26	44	3329	3325	6654	5.41	7.82	6.61
合 計	30	69	99	6859	6906	13765	4.37	9.99	7.19

第2表ニ示スガ如ク女ノ高齢者ハ男ノソレニ比シ約2倍半ニ當ル。又現在人口ニ對スル高齢者千分率ハ7.19名ニシテ之ヲ兵庫縣²⁾ノ統計現在人口千分率4.01名ニ比スル時ハ3.18名ノ多數ヲ示ス。次ニ人口千ニ對スル高齢者ノ率ト最近10箇年間ニ於ケル現在人口死亡率及ビ出生率トヲ比較觀察スルニ第3表ノ如シ。

第3表 高齢者率ト現在人口死亡率及ビ出生率トノ比較表

區 別 範 圍	高齢者現在人口ニ對スル比較		最近10箇年間ニ於ケル 1箇年平均現在人口死亡		最近10箇年間ニ於ケル 1箇年平均現在人口出生	
	高齢者數	現在人口ニ對スル 1000分比	死亡者數	現在人口ニ對スル 死亡1000分比	出生者數	現在人口ニ對スル 出生1000分比
A 町	55	7.73	176	26.50	260	39.14
S 村	44	6.61	123	19.11	217	33.72

A町ハS村ニ比シ死亡率高シ。然レ共高齢者ニ至リテハ却テ多シ。即チ高齢者多キ地方ハ死亡率低シトハ限ラザルガ如シ。

次ニ高齢者ノ職業別上ヨリ見ルニ第4表ニ示スガ如ク 農業最多數ヲ占メ 他ノ職業ハ少數ナリ。然レ共之ヲ以テ直ニ農業ニ従事スルモノハ長壽ナリト云フヲ得ズ。即チ當地方ニ於テハ農業ニ従事スルモノ多數ニシテ相對的ノ現象ナルヲ以テナリ。

第4表 高齢者職業別表

區 別	職 業 別	農 業	無 職	公 吏	日 稼 業	古 物 商	僧 侶	女 中	タ 製 ド 造 業	漁 業	紙 産 商	産 婆	小 物 間 商	仕 出 業	米 屋	大 工	船 乘 業	煙 草 商	質 屋 業
青及期 ビ 壯 初 老	男	20	0	2	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	1	1	1	0	0
	女	49	9	0	3	2	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1
	計	69	9	2	3	2	2	1	0	3	1	1	0	0	2	1	1	1	1
調 査 當 時	男	11	13	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	女	8	54	0	1	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0
	計	19	67	0	1	0	2	0	1	2	0	1	1	2	0	0	0	3	0

(註) 青、壯年期ハ22歳ヨリ50歳迄トシ50歳以上60歳迄ヲ初老期7) 9(a) トス。

昭和3年10月20日現在ニ於ケル高齡者數ハ前述ノ如ク99名ナリシモ戸別調査ノ期間中ニ男女各々1名未ダ詳細ナル調査ヲ了セザル以前ニ死亡セルタメ以下述ベントスル所ハ之ヲ除キ97名ノ調査ニ屬ス。

第4章 高齡者ノ生活狀態ニ就テ

第1節 生活程度

高齡者貧富ノ程度ヲ大別シテ上、中、下ノ3ツトシ更ニ少年、壯年、老年ノ3期ニ別テ調査セルニ第5表ニ示スガ如ク各期ヲ通ジテ中流程度ノ生活ヲ營ムモノ多數ヲ占ム。然レ共之ヲ以テ直ニ中流階級ニハ長壽者多シトハ斷ジ難キハ勿論ナリ。

第5表 高齡者生活程度表

期別 高齡者	少年期			壯年期			老年期		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
男	0	25	4	0	24	5	1	20	8
女	3	58	7	3	48	17	2	44	22
計	3	83	11	3	72	22	3	64	30
百分比	3.09	85.57	11.34	3.09	74.23	22.68	3.09	65.98	30.93

(註) 第5表ニ示ス少年期ハ14歳—22歳トシ、壯年期ハ22歳—50歳迄トシ、50歳以後ヲ老年期ト大別セリ7) 9(a) 而シテ少、壯年期ニ於テノ貧富ノ程度ヲ調査スルハ過去ノコトニ屬シ調査困難ナルニヨリ本人及ビ近親ノ陳述ニヨリ調査地方ニ於テ其ノ當時上ナリシト云フモノヲ上トシ、中ナリシト云フモノヲ中トシ、下ナリシト云フモノヲ下トセリ。老年期ニ於テハ餘リ甚ダシキ移動ナキモノ多キヲ以テ調査當時大約年收得500圓以下ヲ下トシ、500圓—1200圓ヲ中トシ、夫レ以上ヲ上トセリ。

第2節 居住

高齡者ノ大多數ハ壯年期、老年期ヲ通ジテ轉々トシテ住所ヲ移轉セルモノ殆ドナク一般ニ土着ニ近キモノ多シ(狹キ範圍ヲ移轉セルモノハ此限リニアラズ)從テ其ノ地ノ風土、氣候、食物等ニ順應シ生活狀態始終一貫大ナル變化ニ遭遇セズシテ今日ニ至レリ。97名中僅々4名ガ3年以内ニ他ヨリ轉住セルノミナリ。

次ニ住宅ニ就テ其ノ方向ヲ調査セルニ大約第6表ノ如ク南面スルモノ大多數ヲ示シ北面之ニ次グ。又住宅ト周圍トノ關係ヲ見ルニ周圍ニ人家アルモノ大多數ニシテ林中、田中、畑中、海岸ニ接シ孤立セルモノハ殆ドナク唯男ノ1名ノ住宅ハ人里離レタル山ニ接シタル場所ニ存スルノミ。

第 6 表 高 齡 者 住 宅 方 向 表

家 向 高 齡 者	南 向	北 向	西 向	東 向	合 計
男	16	6	4	3	29
女	27	19	12	10	68
計	43	25	16	13	97

第 3 節 衣 服

調査當時大多數ノモノハ普通服ヲ纏ヒ厚着セルモノヲ見ズ。比較的薄着セルモノ 3 名ヲ算スルノミ。過去ニ於ケル衣服ノ狀況ヲ聞クニ衣服ノ厚着薄着等ニハ一方向ヲ傾ケシコトナク主トシテ木綿物ヲ着セリトハ全數ノ答フル所ナリ。

第 4 節 食 物

高齡者ノ全數ニ於テ食物ハ食膳ニ上ル何物ニテモ嬉々トシテ之ヲ攝取シ特ニ好キ嫌ヒノ品種ナカリシト云フ。又野菜食ヲ主トスルモノ大多數ニシテ 95 名 (97.94%) 肉食ヲ主トスルモノ 2 名 (2.06%) ニ過ギズ。1 日中ニ於ケル食事ノ回数ハ當地方ノ習慣ニ從ヒ 3 回ト稱スルモノ全數ヲ占ム。食事ノ時間ハ大抵一定セルモノ多ク今日迄 1 度タリトモ食事ヲ缺ギタルコトナシト云フモノ多シ。次ニ食量ニ關シ調査スルニ第 7 表ニ示スガ如ク中等量ノ食餌ヲ攝取スルモノ 50 歳頃迄ハ 68 名ニシテ全數ノ 70.10% ヲ占ム。勞働ノ盛ナリシ 50 歳頃迄ハ殊ニ女子ニアリテハ授乳ノ關係上大食ナリシモノ其ノ後中食乃至小食ニ移リ 50 歳頃以後ニ於ケル中食攝取者ハ 78 名ニ上リ全數ノ 80.41% ヲ示ス。

第 7 表 高 齡 者 ノ 食 量 表

食 量 區 別	大 食	中 食	小 食	計
男	7	19	3	29
女	12	49	7	68
合 計	19	68	10	97
百分比	19.59 %	70.10 %	10.31 %	100 %
男	0	25	4	29
女	0	53	15	68
合 計	0	78	19	97
百分比	0 %	80.41 %	19.59 %	100 %

(註) 食量ノ大略ノ標準ハ普通ノ茶碗 5 杯以上ヲ大食トシ、3—4 杯ヲ中食トシ、2 杯以下ヲ小食トス。

次ニ嗜好品ノ關係ニ就テ見ルニ餅類ヲ好ムモノ男 7 名、女 18 名計 25 名、總數ノ 25.77% ニ當ル其ノ他ノ

食品ニ就テハ特記スベキモノナシ。酒、煙草ノ嗜好ヲ調査セルニ壯年期ヨリ今日迄多少ノ増減ハアレ共酒ヲ好ムモノ男20名、女17名計37名(38.14%)、煙草ヲ好ムモノ男16名、女13名計29名(29.90%)ナリ。

第5節 勞 働

勞働ハ前掲職業ト密接ナル關係アリ。農業ニ従事セルモノハ50歳頃迄ハ男女ヲ問ハズ朝ニ星ヲ戴キ家ヲ出デタニ星ヲ迎ヘテ家ニ歸ルト云フガ如キ有様ニテ可ナリ劇烈ナル勞働ヲナセルモノ多ク、其ノ他ノ職業ニ従フモノハ此等ニ比シ輕易ナル勞働ニ服シタルモノナリ。而シテ現今尙ホ輕易ナル作業勞働ニ従事スルモノ87名(89.69%)ノ多キヲ見、臥床セルモノハ男4名、女6名計10名(10.31%)ニ過ギズ。前掲第4表職業別中目下無職ナルモノ多キモソハ本人ノ職トシテハ保有セザルモ家計主ノ職ヲ手傳ヒ居ルモノ多キヲ以テ全然無職トハ云ヒ難キ關係アリ。

第6節 慰 安 ノ 方 法

特ニ慰安ノ方法ヲ講ゼルモノナシ。信仰ニ至リテハ眞宗ヲ信ズルモノ最多數ニシテ89名(91.75%)、次ハ日蓮宗、淨土宗ノ各々3名(各々3.09%)、禪宗ノ2名(2.07%)之ニ次ギ無宗教ナルモノ1名モナシ。

第7節 攝 生 法

長壽センガ爲特ニ攝生法ヲ講ジタル跡ナシト雖モ早起早寢ノ良習慣アルモノ男25名、女62名計87名(89.69%)ニシテ大多數ヲ占ム。次ニ入浴ヲ好ムモノ大多數ニシテ男27名、女54名計81名(83.51%)、嫌ヒナルモノ男1名、女3名計4名(4.12%)ノ極メテ少數ヲ算シ、残り男1名、女11名計12名(12.37%)ハ普通ニ之ヲ好ム。由之觀之特ニ身體ノ清潔ニ留意セザレ共高齡者ノ大多數ハ不識ノ間、合理的ニ身體ヲ清潔ニ保チ且入浴ノ衛生的恩澤ニ浴セルヲ知ル。其ノ他特ニ健康保持ノ爲攝生法ヲ講ゼルモノアルヲ聞カズ。其ノ日其ノ日ノ仕事ニ嬉々トシテ從ヒ一定ノ時間ニ適量ノ食餌ヲ攝取シ適度ノ休養ヲトル事ガ何ヨリモ大切ナル攝生法ナリト彼等ハ異口同音ニ云フ。蓋シ往古醫學ノ進歩ハ幼稚ニシテ合理的ノ衛生學ナク爲ニ特殊ノ攝生法ヲ講ズルヲ知ラザルモノ多キニ因ルナラン。

第8節 睡 眠 時 間

睡眠時間ノ關係ヲ調査セルニ答フル所不正確、且壯年期、老年期ニヨリ多少ノ差アレ共各期ヲ通ジテ大約次ノ如ク大別シ其ノ概略ヲ窺知スルニ止メン。之ニヨル時ハ約7—8時間ノ睡眠ヲトルモノ多數ヲ占メ53名(54.64%)ヲ算シ、約5時間以下及ビ約10時間以上ト云フモノハ少數ニシテ17名(17.53%)ヲ示ス。

第8表 高齡者ノ睡眠時間表

高 齡 者		男	女	計
睡眠時間				
約5時	間	3	7	10
約6時	間	4	5	9
約7時	時	6	14	20
約8時	時	8	25	33
約9時	時	6	12	18
約10時	間	2	5	7
合	計	29	68	97

第 9 節 學 力 程 度

學力程度ヲ調査セルニ一般ニ學力程度低ク無學及ビ之ニ近キモノ男 24 名、女 68 名計 92 名、全數ノ 94.85 %ニ當リ、高等小學卒業程度ノモノト認ムルモノ男 5 名 (5.15%)ニ過ギズ。斯ノ如ク學力程度低キハ高齢者ノ幼時ハ一般ニ學校教育ノ普及ヲ見ズ所謂寺小屋時代ニ屬シ爲ニ修學ノ機會ヲ得ズシテ人生ノ末路ニ至レルモノ多キニ起因スルモノナルベシ。

第 5 章 高齢者ノ遺傳的關係

高齢者ニ關スル家系ノ遺傳的關係ヲ知ラントスレ共甚ダシク過去ノ事ニ屬シ調査著シク困難ナリ。從テ充分判明スルニ至ラズ。本人ニ聞クモ記憶ノ良ナルモノアリ、又不良ナルモノアリ、吾人ニ正確ナル材料ヲ提供セズ。依テ 1) 本人ノ説述ニ徴シ、2) 近親者ニ質シ、3) 過去帳、法名等ヲ調査シ、4) 役場ノ戶籍簿ヲ繙ク。是等ノ方法ニヨリ可及的詳細且正確ナル材料ヲ蒐集センコトニ意ヲ用ヒ、多大ノ苦心ヲ伴ヒツツ正確ヲ失セザランコトニ努メタリト雖モ未ダ以テ甚ダ正確ナリトハ云ヒ難キモ其ノ遺傳的關係ノ大略ヲ知ルヲ得ベシ。以下各節ニ互リ其ノ關係ヲ述ベシ。

第 1 節 兩 親 ニ 就 テ

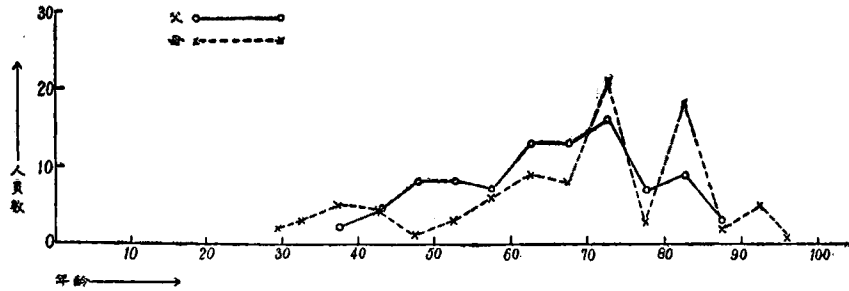
高齢者兩親ノ死亡年齡ヲ觀察スルニ第 9 表及ビ曲線ニテ示スガ如ク父ハ 61 歳以上 75 歳迄ノ間ニ死亡セルモノ多數ヲ占メ、早キハ 36 歳、遅キハ 90 歳ナリ。母ニ就テ見ルニ 61 歳以上 75 歳迄ニ死亡セルモノ最も多キハ父ト同様ニシテ早キハ 29 歳遅キハ 96 歳ナリトス。即チ高齢者ノ兩親ノ大多數ハ高齢ニ於テ死亡セシコトヲ知ル。

第 9 表 高齢者兩親死亡年齡調査表

死亡年齡	兩 親		計
	高 齡 者	兩 親	
	父	母	
29—30 歳	—	2	2
31—35	—	3	3
36—40	2	5	7
41—45	4	4	8
46—50	8	1	9
51—55	8	3	11
56—60	7	6	13
61—65	13	9	22
66—70	13	8	21
71—75	16	21	37
76—80	7	3	10
81—85	9	18	27
86—90	3	2	5
91—95	—	5	5
96	—	1	1
計	90	91	181
不 明	7	6	13
合 計	97	97	194

之ヲ更ニ曲線ニテ示ス時ハ次ノ如シ。

附圖第2 高齢者兩親死亡年齡分布曲線



次ニ是等兩親ノ死因ヲ尋ネ遺傳的疾ノ有無ヲ知ラントス。即チ第10表ニ示スガ如ク過半数ハ老衰病ニシテ比較的短期間ノ療養ニテ死亡セルモノニシテ、不明之ニ次グ。即チ高齢者兩親ノ死因ヨリシテ其ノ疾病ニ遺傳的關係ノ徴スベキモノナキヲ知ル。唯卒中(偏癱症)ニテ死亡セルモノ12名アルハ特記スベキコトナリトス。

第10表 高齢者兩親ノ死因調査表

死因 兩親	老衰病	胃腸病	卒(偏癱症中)	感冒	チフス	コレラ	赤痢	破傷風	産後	ヒテリス	火傷	癰	腎臓病	不明	合計
父	43	7	9	1	3	4	1	1				1		27	97
母	50	2	3	5					8	1	1		1	26	97
計	93	9	12	6	3	4	1	1	8	1	1	1	1	53	194

第2節 祖父母ニ就テ

高齢者ノ祖父母ノ死亡年齡及ビ其ノ死因ヲ調査スルハ兩親ノ夫レ等ヲ調査スルヨリハ尙ホ更ニ難事ニ屬シ戸籍編成以前ノコトトテ多クハ不明、又本人ニ聞クモ出生以前ノコトニ屬スルモノアリテ充分判明シ得ズ。茲ニハ僅ニ判明セル死亡年齡ノミヲ掲ゲ其ノ大略ヲ窺ハシ。

第11表 高齢者祖父母ノ死亡年齡調査表

死亡年齡	區別	父方		母方	
		祖	父	祖	父
51—55 歳		2			
56—60		—			
61—65		—			
66—70		2		3	
71—75		1		2	
76—80		2		4	1
81—85		3		—	
86—90		—		2	
91—93		—		1	
計		10		12	1
不明		87		85	96

第 3 節 同胞及ビ子ニ就テ

高齢者ノ同胞數ヲ見ルニ第 12 表ニ示スガ如ク 2 人—4 人ノ同胞ヲ有スルモノ多ク 8 人以上ヲ有スルモノ及ビ同胞ナキモノハ比較的少數ナリ。

第 12 表 高齢者同胞數調査表

區 別 同胞ノ數	高 齡 者		
	男	女	計
0 人	1	2	3
1 人	2	7	9
2 人	6	16	22
3 人	8	10	18
4 人	7	12	19
5 人	2	8	10
6 人	0	3	3
7 人	0	0	0
8 人	1	1	2
不 明	2	9	11
合 計	29	68	97

次ニ同胞ノ生存セルト 死亡セルトヲ問ハズ 70 歳以上ノ年齢ニ達セルモノアリヤ 否ヤヲ調査セルニ高齢ニ達セル同胞ヲ有スルモノ多數ニシテ 60 名ヲ算シ、不明ナルモノヲ除キ見ル時ハ全數ノ 73.17% ニ當ル。即チ第 13 表ニ示スガ如シ。

第 13 表 70 歳以上ノ同胞數調査表

		高 齡 者		
		男	女	計
自 70 歳 至 90 歳 同胞	1 人ヲ有スルモノ	6	21	27
	2 人ヲ有スルモノ	9	12	21
	3 人ヲ有スルモノ	4	7	11
	4 人ヲ有スルモノ	0	1	1
	合 計	19	41	60
	有 セ ザ ル モ ノ	7	15	22
	不 明	3	12	15

次ニ高齢者ノ實子ノ數ヲ見ルニ 4 人—8 人ヲ有スルモノ多數ニシテ 3 人以下及ビ 9 人以上ヲ有スルモノハ少數ナリ。此關係ヲ表示スルコト第 14 表ノ如シ。

第 14 表 高齢者實子數調査表

區 別 實子ノ數	高 齡 者		
	男	女	計
0 人	4	3	7
1 人	3	7	10
2 人	3	4	7
3 人	0	7	7
4 人	4	6	10
5 人	5	9	14
6 人	4	9	13
7 人	2	8	10
8 人	3	9	12
9 人	1	3	4
10 人	0	3	3
合 計	29	68	97

更ニ轉ジテ 高齢者ノ 實子が目下生存セルト死亡セルトヲ問ハズ 50 歳以上ノ 年齢ニ達セルモノアリヤ否ヤヲ調査セルニ第 15 表ニ示スガ如ク全然實子ナキモノ 男 4 名, 女 3 名計 7 名ヲ除キ 實子ノ 50 歳以上ニ達セルモノヲ有スル高齢者ハ大多數ニシテ 67 名 (74.44%) ヲ占メ, 50 歳以上ニ達セル實子ヲ有セザルモノ 23 名 (25.56%) ヲ算ス。

第 15 表 50 歳以上ノ 實子數調査表

		高 齡 者		
		男	女	計
50 歳以上ニ 達セル實子	1 人ヲ有スルモノ	6	16	22
	2 人ヲ有スルモノ	5	16	21
	3 人ヲ有スルモノ	2	10	12
	4 人ヲ有スルモノ	3	5	8
	5 人ヲ有スルモノ	—	2	2
	6 人ヲ有スルモノ	—	1	1
	7 人ヲ有スルモノ	—	1	1
合 計		16	51	67
有 セ ザ ル モ ノ		9	14	23
實 子 ナ キ モ ノ		4	3	7

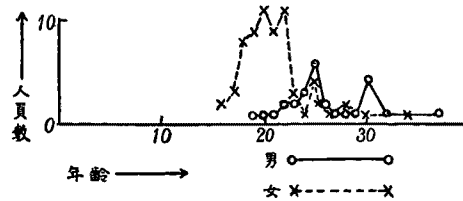
以上ノ 諸項ヲ綜合觀察スルニ長壽ノ 遺傳ニ對シ有力ナル事實ヲ與フルモノノ如シ。

第 6 章 高齢者ノ婚姻ノ關係

高齢者ノ 初婚年齢ヲ溫ムルニ 最低 16 歳ニシテ 最高 37 歳ニ至ル男子ニアリテハ 19 歳ニ於テ 初メテ 1 名ナルモ女子ニ於テハ 16 歳ニテ既ニ 2 名, 17 歳ニ於テ 3 名ヲ見ル。婚姻ノ大多數ハ

男子ハ22歳ヨリ26歳ノ間ニ於テ行ハレ、女子ニアリテハ18歳ヨリ22歳ノ間ニ行ハレタルヲ知ル。又全然婚姻セザルモノ即チ今日迄獨身生活ヲ營ムモノ男子2名ヲ算ス。今婚姻年齢ヲ曲線ニテ示ス時ハ次ノ如シ。

附圖第3 高齢者婚姻年齢曲線



次ニ結婚後ノ經過ヲ見ルニ一度結婚スルヤ今日迄變動ナク經過セルモノ、即チ1婚者ハ最多數ニシテ94名(96.91%)ヲ算シ、再婚者ハ男子1名ヲ見ルノミ。而シテ現今尙ホ配偶者ヲ有スルモノハ男子10名、女子4名計14名、配偶者ナキモノ男子19名、女子64名計83名ナリ。即チ有配偶者14.43%ニ對シ、無配偶者85.57%ノ多數ニシテ是等無配偶者ハ初婚後今日迄配偶者ト生キ別レセル女子1名ヲ除ク外皆テ配偶者ト死別シ、現在迄再婚セズ人生ノ末路ニ向ヒ歩ミテ運ベルナリ。

次ニ配偶者ヲ失ヒタル際ノ年齢ハ何歳ナリシカ調査スルニ第16表ニ示スガ如ク35歳ヨリ40歳迄ニ失ヒタルモノ男1名、女7名計8名、其レヨリ漸次年齢ノ増加スルニツレ配偶者ヲ失フ度合モ増加シ、61歳ヨリ70歳迄ノ間ニ於テ最高ニ至リ夫レヨリ又漸次其ノ度合減ゼリ。

第 1 6 表

配偶者ヲ失ヒタル 際ノ年齢	高 齡 者		計
	男	女	
35—40 歳	1	7	8
41—45	0	5	5
46—50	0	5	5
51—55	1	5	6
56—60	2	5	7
61—65	3	13	16
66—70	4	9	13
71—75	3	8	11
76—80	3	5	8
81—85	1	1	2

第 7 章 既往及ビ現在ノ主ナル疾病

第 1 節 既往ノ主ナル疾病

高齢者ノ大多數ハ生來健ニシテ既往ニ於テ著患ヲ知ラズ。無病息災ナリシト雖モ主ナル既往症ヲ表示セ

バ第 17 表ノ如シ。

第 17 表 高齢者ノ既往症調査表

病 名	高 齢 者		
	男	女	計
痘 瘡	17	39	56
腸「チ フ ス」	2	2	4
赤 痢	1	0	1
子 宮 筋 腫		1	1
胃「カ タ ー ル」		1	1
「ロ イ マ チ ス」		1	1
偏 癱 症	1	7	8
著 患 ナ キ モ ノ	8	17	25
合 計	29	68	97

前表ニ明カナルガ如ク幼時痘瘡ヲ經過セルモノ甚ダ多ク 56 名ヲ算シ、全數ノ 57.73% ヲ占ム。往時種痘法ノ施行ナカリシ時代ノコトトテ現今ノ麻疹ノ如ク幼兒ニ殆ド必發ノ疾病ノ如ク又症狀モ時ニ重症ナルモノアリシモ比較的輕症ニ經過セルモノナラン。

第 2 節 現在ノ主ナル疾病

高齢者ノ大多數ハ既往症ニ示スガ如ク或ハ大患ヲ經過シ、一度自然淘汰ノ關門ヲ通り來レルカ、又ハ生來健ニシテ著患ヲ知ラザルモノノミナルヲ以テ調査當時特記スベキ疾病ヲ有セズ。老人ニ特發スル老人性肺氣腫等ハ之ヲ見ズ。今主ナル現在疾病ヲ示ス時ハ第 18 表ノ如シ。

第 18 表 高齢者ノ主ナル現在疾病調査表

病 名	高 齢 者		
	男	女	計
偏 癱 症	2	4	6
萎 縮 腎	—	1	1
脱 肛	—	1	1
胃腸「カ タ ー ル」	1	—	1
急性氣管支炎	1	1	2
合 計	4	7	11

第 8 章 高齢者ノ體格ニ就テ

高齢者ノ體格ヲ概括的ニ大、中、小ニ大別シ觀察スルニ大約第 19 表ニ示スガ如ク中ナルモノ多數ニシテ 47 名、全數ノ 48.45% ヲ占メ、小ナルモノ僅ニ 10 名、全數ノ 10.31% ニ當ル。

第 19 表 高齢者體格概括表

體 格	男	女	計	百 分 比
大	21	19	40	41.24%
中	8	39	47	48.45%
小	0	10	10	10.31%
合 計	29	68	97	100%

(註) 著者ノ身長ハ 160.60 cm ナリ、體格大體ノ標準トシテ被檢者ヲ之ト比較シ之ヨリ大ニシテ體格大ナルモノヲ大トシ、之ニ近キモノヲ中トシ、之ヨリ小ナルモノヲ小トセリ。但シ女子ニアリテハ體格中ノ標準ハ著者ノ大約眼ノ高サ即チ 150.0 cm トス。

次ニ體格判定上必要ナル 2, 3 ノ測定ヲ行ヒタルヲ以テ呼吸數脉搏數ト共ニ一括第 20 表トシテ記述セン身長體重ノ測定ハ極メテ肝要ナルコトナガラ實施困難ナリシヲ以テ遺憾ナガラ之ヲ測定シ能ハザリキ。

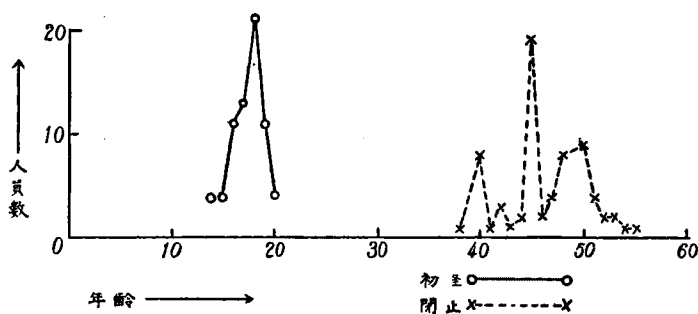
第 20 表 高齢者頸圍其ノ他平均表

測 定 項 目	區 別	男			女		
		平 均	最大(最多)	最小(最少)	平 均	最大(最多)	最小(最少)
頸 圍	cm	34.6	39	31	30.6	37	28
胸 圍	cm	82.5	91	72	78.0	95	66
腹 圍	cm	73.7	82	63	68.7	84	56
呼 吸 數		18	21	17	19	23	16
脉 搏 數		74	88	56	76	90	60

第 9 章 高齢者ノ月經ニ就テ

女ノ高齢者 68 名ニ就テ月經ノ關係ヲ調査セルニ初經ヲ見タル年齡ハ早キハ 14 歳、遅キハ 20 歳ニシテ 17 歳—18 歳ニ於テ月華開キタルモノ最多數ヲ示シ、全數ノ約 5 割ニ當ル。又月經ノ閉止期ハ早キハ 38 歳ニシテ遅キハ 55 歳ナリトス。45 歳ニシテ月經ノ閉止ヲ見タルモノ多數ヲ占メ全數ノ約 3 割ニ當ル。今月經ノ關係ヲ曲線ニテ示ス時ハ次圖ノ如シ。

附 圖 第 4 月 經 曲 線



第 10 章 高齢者ノ検尿ニ就テ

第 1 節 検 尿 ノ 方 法

検尿ノ方法トシテハ調査時又ハ其ノ後 2—3 時間ニシテ排尿セシメタルモノヲ豫メ清洗セル瓶ニ採取シ持ち歸リ時ヲ移サズ検査セリ。反應、比重、外狀、蛋白、糖、其ノ他病的成分ノ有無ヲ検査セリ。反應、比重、外狀ハ法ノ如ク検査シ蛋白定性法⁸⁾トシテハ Sulfosalicylsäureprobe, Hellersche Eiweissprobe, Kochprobe 等ヲ應用シ反應出現ノ程度ニ應ジ次ノ如ク區分シ記號ヲ以テ之ヲ示セリ。

卅 Sulfosalicylsäureprobe, Hellerscheprobe, Kochprobe 共ニ反應著明ナルモノ。

卅 上ノ 3 試験共ニ陽性ナレ共反應稍々弱キモノ。

十 Sulfosalicylsäureprobe ニ於テ 2—3 滴ノ試験薬ヲ加ヘ暫時ニシテ濁濁ヲ生ジ Hellerscheprobe ニテ 2—3 分間ノ後薄キ白輪ヲ生ズルモノ (Kochprobe モ亦陽性)。

士 Hellerscheprobe ニテ陰性ナレ共 Sulfosalicylsäure 2—3 滴ヲ加ヘ暫時放置ノ後濁濁ヲ生ジ加温スルモ溶解セザルモノ (Kochprobe 陽性)。

蛋白定量法⁹⁾ トシテハ操作簡便ニシテ隨時隨所ニ行フコトヲ得ル Roberts, Stolnikow u. Brandberg 法ヲ應用セリ。糖検査法トシテハ Trommersche Probe ヲ應用シ、膽汁色素検査ニ向ツテハ Gmelinsche Probe ヲ應用セリ。尿中蛋白ヲ排泄スル者ノ尿ニ就テハ更ニ遠心沈澱ヲ行ヒ尿沈渣ヲ鏡檢セリ。

第 2 節 其 ノ 成 績

次ニ尿検査ノ成績ヲ示ス爲メ第 21 表及ビ第 22 表ヲ掲ゲン。

第 21 表 検 尿 成 績 表

検査項目 高齢者	反 應				比 重			外 狀			蛋 白 尿 陽 性 者						備考
	酸性	弱酸性	弱アルカリ性	中性	1011—1015	1016—1020	1021—1025	濁濁	澄明	色	卅	卅	+	士	計	百分比	
男	8	19	2	0	2	16	11	3	26	之ヲ略ス	1	5	6	5	17	17.52%	糖及ビ膽汁色素ハ陽性者ナシ
女	7	42	2	17	8	43	17	24	44		4	13	13	5	35	36.08%	
計	15	61	4	17	10	59	28	27	70		5	18	19	10	52	53.60%	

第 21 表ニ明カナルガ如ク高齢者ノ約 5 割餘ハ蛋白尿陽性者ナリ。是等 52 名ノ尿ニ就テ蛋白量ヲ定量シ併セテ尿沈渣ヲ鏡檢セルニ次表ノ如キ成績ヲ得タリ。

第 22 表 蛋白定量及ビ尿沈渣成績表

検査項目 蛋白陽性者	圓 柱		腎上 皮	膀上 胱皮	蛋 白 定 量 成 績				
	顆粒狀 圓 柱	硝子樣 圓 柱			定量シ得 ザルモノ	0.0033% —0.0165%	0.0363% —0.05%	0.1% —0.15%	計
男		1		2	9	7	1	0	17
女	1	3	1	3	10	17	7	1	35
合 計	1	4	1	5	19	24	8	1	52

蛋白尿陽性者 52 名中女ノ 1 名ハ腎上皮及ビ顆粒狀圓柱ヲ認メ臨牀上萎縮腎ト診定セラル可キモノナリ。其ノ他ノモノ即チ 51 名ハ臨牀上自他覺の症狀ヲ缺ギ尿沈渣成績亦殆ド異常ナキヲ以テ此等蛋白尿ノ本態ニ關シテハ尙ホ詳細ナル檢索ヲ俟ツテ解決セラル可キモノナラン。尙ホ蛋白尿陽性者ト血壓トノ關係ハ後述スル所アルベシ。

第 11 章 齒牙、頭髮、眼、聽能及ビ視能ニ就テ

(註) 聽能トハ聽取シ得ル機能、視能トハ看取シ得ル機能ヲ意味ス。

慣用ノ聽力、視力ノ稱ヲ避ケタルハ此語ニテ聽及ビ視ノ局所徵驗 (Local Zeichen) ヲ表スコトスルヲ穩當ト認メタレバナリ。

第 1 節 齒 牙

齒牙ノ脱落ハ 60 歳頃ヨリ始マリタリト云フモノ多數ヲ占メ、調査時脱落シテ絶無ナルモノ男 10 名、女 33 名計 43 名、全數ノ 44.33% ヲ占ム。又 1 本以上現存スルモノ男 19 名、女 35 名計 54 名ニシテ全數ノ 55.67% ヲ算ス。而シテ現存スル齒牙數ヲ見ルニ少キハ 1 本ヨリ多キハ 27 本ニ至リ就中 4 本—8 本ヲ有スルモノ多數ナリ。

第 2 節 頭 髮

高齢者ノ頭髮ハ尙ホ黒色ヲ呈スルモノ多キカ又ハ白色トナレルモノ多キカヲ調査セルニ其ノ程度ニ應ジ大約黒、1/4 白 (3/4 黒)、半白、白ニ區別セルニ第 23 表ニ示スガ如ク今尙ホ全部黒キモノ及ビ殆ド之ニ近キモノハ過半数ヲ占メ 51 名ヲ見、全數ノ 52.58% ニ當ル。

第 23 表 高齢者頭髮調査表

區 別 高齢者	黒	1/4 白	半 白	白	合 計
男	1	13	10	5	29
女	7	30	16	15	68
計	8	43	26	20	97
	51 (52.58%)				

第 3 節 眼

眼ニ於ケル老人性變化⁹⁾(b)ノ著明ナルモノハ

1) 水晶體ノ彈性ヲ失ヒ遠視のトナリ調節能力消失ス。又水晶體ハ其ノ硬度ヲ増シ透明度ヲ減ジ往々ニシテ白內障ニ罹ル。

2) 角膜ノ周緣部ニ灰白色ノ環輪ヲ現ハス。即チ老人環 (Arcus Senilis) 等ナリ。

今眼ニ於ケル是等老人性變化ノ代表的ナル白內障ト老人環トノ有無ヲ調査セルニ白內障ヲ有スルモノ 4 名 (4.40%)、老人環ヲ有スルモノ 25 名 (27.47%) ヲ認メ眼ニ於ケル是等老人性變化ノ比較的少數ナルヲ知ル。詳細ハ第 24 表ヲ以テ示サン。

第 24 表 高齢者ノ眼ニ於ケル變化調査表

老人性變化 高齢者	白 内 障				老 人 環				備 考
	有スルモノ	百分比	無キモノ	百分比	有スルモノ	百分比	無キモノ	百分比	
男	1	3.57	27	96.43	8	28.56	20	71.44	男子及ビ女子ニ於テ兩角膜葡萄腫各々1名女子ニ於テ兩トラホームパンヌス2名膿漏眼後ノ失明2名アリ白内障及ビ老人環ノ有無不明ナルヲ以テ表中是等ヲ除ク
女	3	4.76	60	95.24	17	26.98	46	73.02	
計	4	4.40	87	95.60	25	27.47	66	72.53	

第 4 節 聽能及ビ視能

重聽ハ固有ナル老人性變化ノ一ツニシテ高齢者ニ於ケル此關係ヲ調査セルニ聽能ハ普通ノ對話ニ支障ナキモノ多數ニシテ全數ノ 85.57% ヲ占メ、視能モ亦比較的衰ヘザル狀態ニ在リ。即チ第 25 表ニ示スガ如シ。

第 25 表 高齢者ノ聽能及ビ視能表

區 別 高 齡 者	聽 能				視 能							
	普通對話ニ支障ナキモノ		接耳對話シ得ルモノ(難聴ヲ伴フモノ)		眼鏡ヲ針ノミミドリ通シ又ハ細字ヲ讀ムモノ		眼鏡ヲ要シ左ノ作業ヲナスモノ		老人性變化ノ爲失明セリト思ハルモノ		他ノ原因ニヨリ失明セルモノ	
	員數	百分比	員數	百分比	員數	百分比	員數	百分比	員數	百分比	員數	百分比
男	26	89.66	3	10.34	15	51.72	12	41.38	1	8.45	1	8.45
女	57	83.82	11	16.18	38	55.88	22	32.35	3	4.41	5	7.36
計又ハ百分比	83	85.57	14	14.43	53	64.64	34	35.05	4	4.12	6	6.19

第 25 表ニ示スガ如ク高齢者ノ視能ハ失明 10 名、視能ノ尙ホ良ナルモノ 53 名、全數ノ 54.64 %ナリ。即チ高齢者ノ約 5 割餘ハ視能尙ホ比較的健全ナリト云フヲ得ベシ。

附. 高齢者ノ血壓ニ就テ

血壓ノ臨牀的意義ハ現時益々深キヲ加ヘ各種疾病ノ診療上ニ爾餘ノ理學的検査ト相俟ツテ肝要缺ク可カラザルモノトナレリ。又人ノ壽命ト密接ナル關係アルコトハ生命保險會社ノ統計¹⁰⁾ニヨリ明白ニ立證セラルルニ至レリ。從テ之ニ關スル研究ハ至ル所ニ旺盛トナリ、其ノ業績モ亦枚舉ニ遑アラズト雖モ本邦高齢者ノ血壓ニ關スル報告ハ甚ダ稀ナルガ如シ。即チ柴山¹¹⁾ハ 59 歳迄、日小田¹²⁾ハ 70 歳迄、廣田¹³⁾ハ 80 歳迄ノ測定ニシテ 80 歳以上ノ高齢者ニ就テ測定セル血壓成績ハ遺憾ナガラ見當ラズ。余ハ此機會ニ於テ前述ノ高齢者ニ就キ血壓ノ測定ヲ行ヒシヲ以テ併セテ其ノ成績ヲ記述セントス。

第 1 節 血壓測定方法

血壓測定器ニ種々アレ共携帯ニ便ニシテ取扱亦簡易而モ其ノ成績正確ナルモノハ最モ理想的ニシテ吾人

ノ要求スル所ナリ。是等ノ條件ニ殆ド適合スベシト思考シ余ハ豫メ檢定セルTyros 血壓計ヲ使用セリ。測定ノ方法トシテハ最も正確ナリト一般ヨリ認メラルタル Korotkow¹⁴⁾ ノ唱ヘタル聽診法ヲ用キ最高及ビ最低血壓ヲ測定セリ。血壓測定ノ時間ハ食事ノ關係ヲ考慮シ毎日殆ド午後2時—3時ノ間ヲ選ビ次ノ注意ノ下ニ之ヲ測定セリ。

- 1) 體位ハ止ムヲ得ザルモノヲ除ク外總テ坐位トス。
- 2) 測定前約15分間以上靜坐セシメ、身體ト精神トノ安靜ヲ守ラシメ、些ノ不安ナカラシムル様留意シ、
- 3) 「マンセツト」ハ常ニ左上膊ニ位置セシメ、
- 4) 被檢者ガ甚ダシキ冷感ヲ感ゼザル範圍内ニ定テ測定スルコトニ意ヲ用キ、
- 5) 1回ノ測定ニ要スル時間ヲ2分以内トシ一時休ミ、2回測定セル成績ヲ平均セリ。

第2節 測定ノ成績

高齢者79.5歳ヨリ90.5歳迄ノ男子29名、女子68名計97名ノ最高血壓、最低血壓及ビ脈壓ハ第26表ニ示スガ如ク、最高血壓ハ85歳位迄ハ増加ヲ示スモ夫レ以後ハ却テ減ズ。又最低血壓ハ殆ド大ナル變動ヲ示サズ。女子ノ血壓ハ男子ノソレニ比シ幾分高キ感アリ。以上ノ成績ハ Bowes¹⁵⁾ ガ Chicago ニ於テ65歳以上94歳迄ノ男子50名女子100名ニ就テ測定セル成績ニ稍々相似タルヲ知ル。

第26表 高齢者平均血壓表

	年 齡	測 定 人 員	最 高 血 壓 (mm Hg)	最 低 血 壓 (mm Hg)	脈 壓 (mm Hg)
男女 平均 血壓	79.5 歳	21	163	84	79
	80.5—84.5	60	179	85	82
	85.5—89.5	14	171	87	76
	90.5	2	148	84	64
男子 平均 血壓	79.5	8	165	87	82
	80.5—84.5	19	178	85	80
	85.5—89.5	2	154	81	65
	90.5	0	—	—	—
女子 平均 血壓	79.5	13	161	83	80
	80.5—84.5	41	180	85	89
	85.5—89.5	12	168	89	78
	90.5	2	148	84	64

比較ノ爲メ Bowes ノ成績ヲ掲グルコト次ノ如シ。

第 2 7 表

	年 齡	測 定 人 員	最 高 血 壓 (mm Hg)	最 低 血 壓 (mm Hg)	脈 壓 (mm Hg)
男女 平均 血壓	65—69	32	151	82	65
	70—74	39	160	86	73
	75—79	38	166	86	79
	80—84	27	175	84	83
	85—89	7	170	90	77
	90—94	7	142	81	61
男子 平均 血壓	65—69	11	145	81	63
	70—74	10	166	91	75
	75—79	14	159	89	77
	80—84	11	163	84	80
	85—89	0	—	—	—
	90—94	4	145	81	65
女子 平均 血壓	65—69	21	154	83	71
	70—74	29	158	83	72
	75—79	24	170	88	81
	80—84	16	183	85	91
	85—89	7	170	90	77
	90—94	3	137	80	53

第 3 節 血壓ト蛋白尿トノ關係

上文述べタルガ如ク高齡者 97 名中蛋白尿陽性者 52 名 (53.60%) ヲ算ス。是等蛋白尿陽性者ノ血壓ヲ精細ニ觀察スルニ 33 名 (63.46%) ハ最高血壓 150mm Hg 以上ヲ示シ、19 名 (36.54%) ハ最高血壓 150mm Hg 以下ナリ。而シテ高齡者 97 名中最高血壓 150mm Hg 以上ヲ算スルモノ 55 名ニシテ此 6 割ハ即チ蛋白尿陽性者ナリ。更ニ最高血壓 180mm Hg 以上ヲ示スモノ 10 名中 8 名 (8 割) ノ多數ハ蛋白尿陽性者ナリ。是ニ由テ之ヲ觀ル時ハ蛋白尿ト血壓トノ關係ハ甚ダ密接ナルヲ窺知シ得ベク血壓 150mm Hg 以上ニシテ蛋白尿ヲ排スルモノハ腎臟疾患ヲ疑ハザル可カラズト雖モ腎臟機能検査等爾餘ノ諸検査ヲ俟ツテ解決セラル可キモノナラン。

第 12 章 總括並結論

以上ノ諸成績ヲ總括シ之ヲ考按シツツ結論ニ入ラントス。

1) 昭和 3 年 10 月 20 日現在ニ於ケル兵庫縣西南隅赤穂町及ビ鹽屋村ニ於ケル數ヘ年 80 歳以上 (79.5 歳—90.5 歳) ノ高齡者ハ現在人口 1000 ニ對シ 7.19 名ノ割合ニシテ女ハ男ノ約 2 倍半ニ相當ス。高齡ニ至ルニ從ヒ男ノ漸次減少シ女ノ割合多クナルハ統計ノ示ス所ニシテ森ノ統計學概論^(b)ニヨレバ「人生ノ出發點ニ於テハ死亡率ハ女子低キモ 2 歳ヨリ男子ヲ凌ギ青年ノ波瀾期ニ於テ特ニ女子ノ山高ク 42 歳ニ至ル。43 歳ヨリハ常ニ女子ノ死亡率が低イ」ト云ヘリ。

惟フニ其ノ原因トナルモノ種々アル可キモ概シテ男ハ外ニアリテ活動シ心身ノ過勞ニ加フルニ暴飲暴食ノ機會多ク不攝生ニ陥リ易キモ女ハ之ニ反シ主トシテ内ニアリ心身ノ勞苦比較的少ク加フルニ男ニ見ルガ如キ不攝生ニ陥ル機會殆ドナキハ亦以テ其ノ一原因ヲナスモノト云フヲ得ベシ。

2) 高齢者ト職業トノ關係ハ何の特筆スベキコトナシト雖モ調査地方ニ於テハ農業ニ従事セシモノ甚ダ多シ。

3) 高齢者ノ少シ、壯、老年期ヲ通ジ生活程度中ナルモノ多數ナリ (75.26%)。

4) 高齢者ノ大多數ハ殆ド土着ニ近ク轉々トシテ居住ヲ移轉セルモノハ甚ダ稀ナリ。從テ生活狀態ニ急劇ナル變化ヲ來サズ今日ニ及ベリ。

Howell¹⁶⁾ノ記載ニ依レバ Thomas Parr ト云フ人 152 歳 9 箇月ニテ死セリ。Harvey ニ依リ死體解剖行ハレタルニ内臓其ノ他ニ老衰ノ徵ナカリシト云フ。彼ノ死亡ノ直接ノ原因ト認ム可キモノハ Shropshire ヨリ London ニ移住シ食物、空氣及ビ生活狀態ノ急變ニ因ルモノナリト云ヘリ。

又上文第 3 章末項ニ記述セルガ如ク高齢者ノ女 1 名ハ 87.5 歳ノ老齡ヲ以テ御大典跡御所拜觀ノ爲メ京都ニ至リ神戸ニ立チ寄り間モナク腦充血ヲ患ヒ彼地ニテ死亡セルナリ。彼ト是トヲ對照スルニ古今東西ノ別、年齡ノ相異コソアレ生活狀態ノ劇變ハ是等高齡者ニ甚ダシキ惡影響ヲ及ボスモノナルベシ。

5) 食餌ハ中等量ヲ攝取スルモノ多數ニシテ特ニ好キ嫌ヒノ品種ナク野菜ヲ副食スルモノ多ク 97.94% ニシテ酒ヲ好ムモノ 38.14%, 煙草ヲ好ムモノ 29.90% ナリ。

6) 高齢者ノ多數ハ不斷ノ活動ヲ續ケ今日ニ至ルモ尙ホ輕易ナル作業勞働ニ從フモノ 89.69% ヲ算ス。

7) 長壽センガ爲メ特ニ攝生法ヲ講ジタル跡ナシト雖モ入浴ヲ好ムモノ 83.51% ヲ算シ入浴ノ影響大ナルモノアルヲ思ハシム。

8) 學力程度ハ無學又ハ之ニ近キモノ多シ (94.85%)。

9) 高齢者ノ兩親、同胞及ビ子ニ高齢者多數アリ。

Ikeno¹⁷⁾ニ依レバ 「Nagaiki no Tisudi ga aru koto wa yoku Hito ga iu koto de aru ga, tugino Hyô wa sore wo simesu. Sunawati, kono Hyô wa Oya no sinda Tosi to umareta Kodomo ga 5 sai ni naru madeni sinda Kazu to wo kurabeta mono de, wakai utini sinda Oya kara deta Kodomo niwa 5 sai madeno utini sinu Wariai ga ôku, Oya no Inoti ga nagai mono hodo dandan Kodomo no sinu Wariai ga hette iru.」 (Hyô habuku) ト即チ俗間所謂長壽ハ遺傳ナリト云フ事ハ是等高齡者ノ事實ニ於テ裏書セルモノト云フベシ。

10) 高齢者ノ婚姻ノ大多數ハ男 22 歳ヨリ 26 歳迄ノ間ニシテ、女ハ 18 歳ヨリ 22 歳迄ノ間ニ行ハレ順調ナル經過ヲトレルモノ多シ。

11) 生來健ニシテ著患ヲ知ラザルモノ多キモ、幼時痘瘡ヲ病ミタルモノ5割以上ヲ見ル。

現在疾病ヲ有スルモノ比較的少數ナリ (11.34%)。

12) 體格ハ中ナルモノ多數 (48.45%) ニシテ大ナルモノ之ニ次ギ (41.24%)、小ナルモノ最モ少シ (10.31%)。

其ノ平均胸圍其ノ他次ノ如シ。

(cm)	男	女
頸 圍	34.6	30.6
胸 圍	82.5	78.0
腹 圍	73.7	68.7

13) 女子ノ高齢者ノ月經關係ヲ見ルニ 初經ハ17歳—18歳ニテ來潮セルモノ最モ多ク全數ノ約5割ニ當リ、閉止期ハ45歳ヲ最多トシ全數ノ約3割ヲ占ム。

14) 蛋白尿ヲ排スルモノ高齢者ノ半數以上ヲ占メ 53.60% ナリ。是等ノ約6割ハ最高血壓 150mm Hg 以上ヲ示シ最高血壓 180mm Hg 以上ヲ示スモノノ約8割ハ蛋白尿陽性者ナリ。

15) 齒牙、頭髮、眼、聽能及ビ視能等ニ於ケル老人性變化ノ發現輕度ナルモノ又ハ尙ホ發現セザルモノ比較的多數ナリ。即チ尙ホ齒牙1本以上殘存スルモノ 55.67% ニシテ頭髮尙ホ黒キモノ及ビ之ニ近キモノ 52.58% ヲ認メ、眼ニ於テハ老人環ナキモノ 72.53%、白內障ナキモノ 95.60% ヲ算シ、聽能ハ普通對話ニ支障ナキモノ 85.57% ヲ占メ、視能ノ比較的良ナルモノ 54.64% ニ上ル。

16) 高齢者ノ血壓ハ其ノ平均次ノ如シ。

年 齡	最高血壓 (mm Hg)	最低血壓 (mm Hg)	脉 壓 (mm Hg)
79.5 歳	163	84	79
80.5—84.5	179	85	82
85.5—89.5	171	87	76
90.5	148	84	64

之ヲ要スルニ生活狀態ヲ始終一貫、急劇ナル變化ヲ來サザル様留意シ、中等量ノ食餌ヲ攝取シ、適當ノ作業勞働ト休養トヲ配合シ、之ニ加フルニ健全ナル結婚生活ト長壽ノ遺傳トヲ背景トスル時ハ恐ラク或ル程度迄ハ長壽ノ目的ヲ達シ得ベキモノナラン。

終リニ臨ミ余ニ本檢索ヲ命ジ始終御懇篤ナル御教示ト御校閲ノ勞トヲ辱フシタル恩師生沼教授ニ對シ衷心深甚ナル感謝ヲ捧グルモノナリ。(4. 5. 28. 受稿)

主 要 文 獻

- 1) 大阪朝日新聞神戸版, 16835 號—16836 號, 昭和 3 年. 2) 兵庫縣衛生課, 高齢者調査摘要, 大正 14 年 1 月. 3) 愛媛縣衛生課, 高齢者保健狀態調査, 昭和 4 年 1 月. 4) 三田谷, 國家醫學雜誌, 408 號, 37 頁及 409 號, 85 頁. 5) 森, 統計學概論, 第 7 版, 51 頁, (a) 及 292 頁, (b). 6) 福富, メンタル・テスト原理, 第 1 版, 46 頁. 7) Tigerstedt, Lehrbuch d. Physiol. d. Menschen, Bd. II, S. 504, 1920. 8) 吉栖, 海軍軍醫會雜誌, 第 40 號, 116 頁. 9) 入澤, 安藤, 村松, 老人病學, 第 2 版, 上卷 2 頁, (a) 及 3 頁—58 頁, (b). 10) 大同生命保險株式會社, 血壓並血壓 = 影響ヲ及ボスモノニ就テ, 5 頁, 大正 13 年. 11) 柴山, 東北醫學雜誌, 第 4 卷, 81 頁. 12) 日小田, 中外醫事新報, 第 989 號, 663 頁. 13) 廣田, 大阪醫學會雜誌, 第 18 卷, 第 10 號, 701 頁. 14) H. Sahli, Klinische Untersuchungsmethoden, Bd. 1, S. 201, 1913. 15) Bowes, The Journ. of Laborat. and clinic. Med. Vol. 2, P. 256, 1917. 16) Howell, Textbook of physiology. P. 1014, 1922. 17) Ikeno, Zikken-idengaku, 3 Pan, 103 Pêzi.

*Abstract.***A medical observation on Japanese aged persons.****Appendix : A study of blood pressure in the aged**

By

Seiiti Yosizumi.

*From the Physiological Department of University, Okayama, Japan.**(Director : Prof. Dr. S. Oinuma.)*

Received for publication, May, 28, 1929.

In 1928, the present author carried out a medical observation including the measure of the blood pressure on ninety seven cases of the Japanese aged persons from 79.5 to 90.5 years of age.

It gave the following data.

- 1) The permillage of aged persons (over 79.5 years of age) in the observed district is 7.19, which distributes between male and female in the ratio of 1 : 2.5.
- 2) A large number of them were farmers, these make up the most of the inhabitants.
- 3) On the most of them I could trace the inheritance of the longevity in their kin.
- 4) In all cases, with only few exceptions these aged persons were generally healthy and have no anamnesis of serious diseases.
- 5) It appears not to be beneficial to aged people, to bring them to a sudden change of condition of life.
- 6) Senile alteration in cornea and ear appeared comparatively rare.

7) The blood pressure measured with Tycos' sphygmomanometer gave the following data.

Table I. The average blood pressure in both sex.

Age.	Number examined.	Systolic pressure. (mm Hg)	Diastolic pressure. (mm Hg)	Pulse pressure. (mm Hg)
79.5	21	163	84	79
80.5—84.5	60	179	85	82
85.5—89.5	14	171	87	76
90.5	2	148	84	64

Table II. The average blood pressure in female.

Age.	Number examined.	Systolic pressure. (mm Hg)	Diastolic pressure. (mm Hg)	Pulse pressure. (mm Hg)
79.5	13	161	83	80
80.5—84.5	41	180	85	89
85.5—89.5	12	168	89	78
90.5	2	148	84	64

Table III. The average blood pressure in male.

Age.	Number examined.	Systolic pressure. (mm Hg)	Diastolic pressure. (mm Hg)	Pulse pressure. (mm Hg)
79.5	8	165	87	82
80.5—84.5	19	178	85	80
85.5—89.5	2	154	81	65
90.5	0	—	—	—

As Table I shows, the systolic pressures increase with the age till 85 and then decrease again.

The diastolic pressure did not vary much after the age of 79.5.

8) Albuminurea is found in large number of them (53.6 %) and 63.5 % of them have high systolic blood pressure (150 mm Hg or over), but they were able to take every-day duty according to their age without trouble except in one case.

9) The average circumference of chest,	female (cm)	male (cm)
" " " " neck.	78.0	82.5
" " " " abdomen,	30.6	34.6
	68.7	73.7